

**荒川流域エコネット地域づくり推進協議会**  
**令和3年度 第2回 荒川流域エリア・ワーキング**

**議 事 要 旨**

■ 日 時：令和4年 1月14日（金）14:00～16:00

---

■ 場 所：荒川上流河川事務所 大会議室・Web会議（Zoom）形式併用

---

■ 議事要旨

---

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の進捗について
  - ・令和3年度 協議会活動結果の報告を行った。また、地域関係者の取り組みに関する報告を行った。
  
2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について
  - ・今後の取り組みの進め方等について意見交換を行った。
  
3. その他（連絡事項等）
  - ・本ワーキング全体を通じた意見交換や協議会名の英語表記についての意見交換を行った。また今後の予定について確認を行った。

■ 配布資料

---

- ・ 議事次第／出席者名簿・配席図／WG規約・委員名簿
- ・ 資料1 令和3年度 第1回荒川流域エリア・ワーキング議事要旨
- ・ 資料2 アクションプラン推進のための意見交換用資料
  - 令和3年度の取り組み結果・令和4年度の取り組み計画（案）

■出席者

| 構成                      | 団 体 名 等                           | 氏 名    |
|-------------------------|-----------------------------------|--------|
| 学<br>識<br>経<br>験<br>者   | ◎埼玉大学 名誉教授                        | 浅枝 隆   |
|                         | (公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園<br>副園長 | 高木 嘉彦  |
|                         | 東邦大学 理学部 教授                       | 長谷川 雅美 |
| 団 市<br>体 民              | 特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事           | 川島 秀男  |
| 関<br>係<br>自<br>治<br>体   | 鴻巣市 環境経済部 環境課 課長                  | 長澤 和弘  |
|                         | 桶川市 市民生活部 環境課 係長                  | 荒井 崇志  |
|                         | 川島町 農政産業課 主任                      | 大嶋 真由美 |
|                         | 吉見町 環境課 係長                        | 笛木 学   |
| 行 政<br>関<br>機<br>係<br>関 | 埼玉県 環境部 みどり自然課 主任                 | 森田 梢   |
|                         | 埼玉県 県土整備部 河川環境課 主任                | 服部 大輔  |
|                         | 荒川上流河川事務所 副所長                     | 米沢 拓繁  |
| 事<br>務<br>局             | 荒川上流河川事務所 河川環境課 課長                | 鬼頭 岳彦  |
|                         | 荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長            | 新保 美奈子 |
| ※                       | 関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長          | 橋本 真孝  |

◎座長 / ※オブザーバー

学識経験者・民間団体 氏名五十音順

## 1. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の進捗について

### (1) 前回 WG 議事要旨の確認

#### ○ 事務局

【資料 1】令和 3 年度 第 1 回荒川流域エリア・ワーキング議事要旨について説明

→意見なし。

### (2) 令和 3 年度 協議会活動結果の報告

#### ○ 事務局

【資料 2】アクションプラン推進のための意見交換用資料のうち、令和 3 年度の取り組み結果（生物の生息場環境保全に関するプラン）について説明。

#### ○ 浅枝座長

都内の大学で留学生を相手として、関連する内容の講義をしていた。なぜ日本に多様な生物が棲むようになったのかといった話題から講義を行った。そうすると留学生も非常に興味を持っていた。

エコロジカルネットワークの活動は、日本の過去の歴史を顧みても、非常に重要な活動になると思う。

#### ○ 長谷川委員

コウノトリには二面性があり、場所によってはアメリカザリガニを始めとした外来種を捕食し貴重種の生息環境を制御する可能性があるが、西日本では貴重なダルマカエルを捕食してしまう事例もある。コウノトリは高次捕食者として、水辺の生態系における様々な生物を食べる。

単純に「外来種だから」といってそれらを駆除するよりは、在来種の生息状況を整備しコウノトリの定着を促進させ、それによって餌であるザリガニなどが低密度になっていくというような、生態学的な視点から考えることが重要となる。

様々な取り組みを縦割りのまま行うのではなく、エコロジカルネットワークとして考えたときに、生態学的な捕食・被食の関係をどう制御していくのかという視点で考えていくことが大事であり、配慮が必要となる。

#### ○ 浅枝座長

仰る通りで、現状はまだ縦割りで示す形となっているが、生態系におけるつながりがあり、またつながりには仕組みがある。どこでどういった影響があるか、というようなフローチャート的なものを今後どこかの段階で整理して、行っている活動がどう関係しているか、全体像から分かる形になるといいと思う。

埼玉の活動だけに留まらず、例えば海洋プラスチックの問題はナノプラスチック問

題へつながり、人体に関わる話になり、そのうち大きな問題になる。このようなかなりかけ離れた問題でもつながる部分があるだろう。

#### ○ 高木委員

コウノトリを中心とすると、生物に関する部分の取り組みを考えざるを得ないが、例えばコウノトリの餌とするために魚を放流すればいいという考え方はNGである。

現在の荒川流域での餌量をどのように増やすかを考えていくことが重要である。かつては関東でも湿地や湿田が多く、湿田にはフナなどが繁殖していたが、現在は乾田化されていて、生き物が生きていた仕組みが変わってきている。

そこを我々人間の叡智でどううまく補填していくか、コウノトリをシンボルとした生態系の回復をどのように実施していくかといった具体的なところを進めていかないとコウノトリの定着にはなかなか結びつかないと思われる。

そうした部分の解決策というか方向性が出てくると良いと思う。

#### ○ 事務局

【資料2】アクションプラン推進のための意見交換用資料のうち、令和3年度の取り組み結果（地域振興・経済活性化に関するプラン）について説明。

#### ○ 浅枝座長

自治体におかれては、広報ツールなどに対する意見はあるだろうか。実際にコウノトリの飼育を行われている鴻巣市はいかがか。

#### ○ 鴻巣市

デジタルサイネージ動画は市民の方々にとっても目で見てわかりやすいものとなっている。鴻巣市ではまだ広報ツールを利用できていないが、動画については今後は是非利用したい。

#### ○ 浅枝座長

エコロジカルネットワークの取り組みは日本だけでなく世界的なものである。なぜそうした取り組みが必要かという点、様々な理由から自然を残さなくてはならないが、取り組まなければすぐ都市化されてしまう。

インターネット上で検索すると様々な国の活動の様子が出てくる。日本では生物多様性をキャッチフレーズにしており、世界的にも重要性が高い。うまくインターネットなどを活用すればエコネットの活動を世界中に宣伝できる。

海外の都市は近郊に自然地があるが、日本の都市はどこまでも広がっており、近郊に大きな自然池は少ない。一方でこの活動では、東京に比較的近い場所でエコネットの活動を行っている。そうした観点から、うまく広報していただければと思う。

#### ○ 吉見町

Google での流域共通マップはまだ公開されていないのだろうか。

○ 事務局

現時点ではまだ公開していない。

○ 吉見町

協議会での取り組み・活動について、自治体の広報紙や HP での PR を出来ていない。できればそうした広報を近いうちに行いたい。

活動内容など、住民に対し周知したい事項についてまとめたペーパーなどがあれば、広報紙でも HP でも取り上げやすい。情報がたくさんありすぎて、我々では何をどのようにまとめればよいか整理しにくい。

○ 事務局

コロナ禍もあり思うような活動が出来ていない状況であったが、例えばマップなど具体的なものを広報資料として活用したい。

今後、商業施設でのワークショップを予定しており、こうしたイベントの実施やホームページでのマップ公開を一つ機会として、例えば自治体で同時に広報するなどの取り組みを行えたら効果があるのではないかと。

○ 浅枝座長

自然地には大きな意義・大きな魅力があるということを伝えたい。

○ 吉見町

鴻巣市の飼育施設について、施設やイベントの写真や経緯も広報できるなら掲載したい。

鴻巣市の隣の自治体であるため、放鳥した地域にコウノトリが戻ってくると言うのであれば吉見町にも戻ってくる可能性がある。そうしたことも PR できるといい。

(3) 令和3年度 地域関係者における取り組み事例のご紹介

○ 鴻巣市

【資料】鴻巣市でのコウノトリの里づくり事業の取り組みについて説明

○ 事務局（荒川上流河川事務所）

【資料】荒川上流におけるコウノトリ等の多様な生物の生息・生育場づくりの取り組みについて説明

○ 高木委員

荒川と川裏の水田などとの連続性を確保する縦断的なネットワークについてのお話を興味深く聞いていた。この地域に必要なと思うのが、コウノトリの営巣場所。そこ

をどう考えていくかをこうした活動に組み込んだほうがいい。

今後コウノトリが放鳥されると、やはり営巣台を設置しようという話も出てくると思う。その際に全体的な見込みを考えながら設置することが大事である。

コウノトリは縄張り意識の高い鳥であり、そうした部分も方針に加えていけるといい。

#### ○ 川島委員

渡良瀬遊水地の人工巣塔に単独で住み着いた、野田で放鳥された「ひかる」は徳島から飛んできた「歌」と結ばれ2羽のヒナをもうけた。翌年には同じく野田で放鳥された「レイ」と結ばれまた2羽のヒナをもうけた。

最近朝晩観察している限りでは、8羽のコウノトリが渡良瀬遊水地にいるようだ。

荒川流域でエコネットの取り組みとして大間の湿地等の整備が進んでいくと、渡良瀬遊水地からこちらへコウノトリが飛んでくることも考えられる。

人工巣塔を計画的に要所要所へ建てるのが重要だ。コウノトリはみんな木の上などではなく人工巣塔にねぐらを作っていると伺っている。

小山市には5箇所、兵庫県豊岡市には25箇所の人工巣塔が建っていると聞くが、鴻巣市にもぜひ負けずに人工巣塔を建ててほしい。

#### ○ 長谷川委員

川島委員より「もっと人工巣塔を建ててほしい」とのお話があったが、豊岡市ではむしろ人工巣塔を削減する方向で動いている。

コウノトリが自然の樹木に営巣できるよう、営巣環境を良くすることが大事である。

## 2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について

### (1) 今後の取り組みの進め方について

#### ○ 事務局

【資料2】アクションプラン推進のための意見交換用資料のうち、来年度の取り組み計画（案）について説明。

→意見なし。

## 3. その他（連絡事項等）

### (1) 全体を通じた意見について

#### ○ 長谷川委員

コウノトリの営巣環境について、埼玉平野にはたくさんの神社や仏閣・城跡があり、江戸時代から残るそれらの場所にはかなり大型のクロマツ等が生えている。特に岩槻城などがある。

そうした文化財として保存されている場所についてもコウノトリのポテンシャルマップと突き合わせ、可能性のある場所として認識することが大事だと思う。

また、利根川から荒川に向けていくつか用水路が通っており、利水の仕方をうまく

工夫すれば用水路等に魚類が上がって来る可能性もある。海からはアユ・マルタウグイ・シーバスが上がってきている。

一見なんとも言えないような三面護岸であっても泥が溜まると増水時にナマズがやってきて産卵したりするというのを聞いたことがあるので三面張りの水路でもポテンシャルはあると考えられる。

そうした観点から、一般の釣り人などから「荒川・利根川流域の低地のどこにどんな魚がいるか」を調査し把握するのもいいのでは。その際に「何のために調査するのか」を魚好きな人たちにもアピールするとエコネットについての理解も深まるのではないか。

#### ○ 浅枝座長

30年前、荒川周辺の小川の水が途切れてしまうという事があった。現在ではダムなどにより流量は増えたが、まだ回復していない。そのため、荒川周辺には大きい魚はおらず、小さい魚ばかりがいる。最近ヒレを食べられたメダカが沢山いるが、原因はアメリカザリガニである。

そのような状況であり、エコロジカルネットワークによる整備の取り組みはコウノトリのためだけでなく人間のためにもなるという観点から、水量が減るような時期でも小川にも水が入るようにするよう話をしてもらってもいいのではないか。水利権など諸問題はあるが、そうしたことも視野に入れてもいいのでは。

#### ○ 埼玉県 みどり自然課

コウノトリをシンボルとした自然の保全は大切だが、コウノトリのみではなく、流域で活動するという事か。

#### ○ 浅枝座長

そのような考え方で良い。

コウノトリにシンボルとして立ってもらわないと動きは取れないが、最終的な目的は荒川流域の水域・陸域も含めた自然再生となる。そうした意味では埼玉県みどり自然課の役割は非常に大きい。

#### ○ 関東地方整備局 河川環境課

先程浅枝座長よりお話があったが、コウノトリをシンボルとしてわかりやすいところから活動していくが、最終的な目標としての自然再生を見据えて取り組んでいかなければならないと感じている。

コウノトリだけで盛り上がっている部分もあると感じており、それはそれで良いことではあるが、その先を考えながら動き出したいと思う。

#### ○ 浅枝座長

日本は生物多様性の面で非常に重要なポジションにあると世界中から指摘されてい

るが、日本でエコロジカルネットワークが立ち上がったのは関東が初となる。

海外ではその時点で多くの活動が始まっており、それに倣って関東で動き出した形である。しかし非常に重要な立ち位置であることは変わらない。

海外では夕方になると多くの人が川の土手をランニングしているが、日本ではなかなかそうした雰囲気は醸成されなかった。長時間労働もあり意識の中にゆとりがなかった。

幸か不幸かリモートワークをせざるを得ない状況になり、日本人の意識も変わり、荒川流域の意識も変わっている。そしておそらく、将来国内外からここを訪れる人たちの意識も変わっている。

しかし、下地になる「自然」が無いと話にならない。そのため、このプロジェクトが将来的に大きく変えていくきっかけになると良いと思っている。

### ○ 浅枝座長

エコロジカルネットワークの取り組みにどれほど経済的価値があるのか、といった評価は重要である。鴻巣市で行われている商品化の取り組みを始めとして他のサービス等の側面があるが、そうした点を評価するためのデータを今の時期から、またあらゆる方向から収集しておくことが重要だと思う。

### ○ 吉見町

先程長谷川先生より用水路についてのお話があったが、どれほどの深さがあればコウノトリはエサを捕食できるだろうか。あまり深いとよくないだろうか。

### ○ 長谷川委員

多少水深が深いとしても、流れがゆるやかであれば問題ない。逆に浅くても、人間が川に入ったときに歩けないと感じるような急な流れであるとコウノトリにとってはつらい。ただし、そこに魚がいるということが前提となる。

### ○ 吉見町

吉見町内では市野川から用水路として水を引いているが、そこには高低差が無いため、一年中水があり釣り人もいる。そうしたところも餌場になる可能性はあるのだろうか。

### ○ 長谷川委員

もちろん可能性はある。

吉見町付近では冬にもイチゴ栽培が行われているが、そのために水利権があり用水路に一年中水が流れている。それは単なる環境水として水が流れているだけでなく、何らかの他の産業と結びついて有効活用されている水であるということを地域振興とも関連付けて考えていく糸口になるということを考えている。

○ 吉見町

ため池はどうだろうか。

○ 長谷川委員

ため池は冬に水を落とすが、関西ではそこを有効な餌場として活用している。

渡良瀬遊水地自体も、水質を改善するという目的はあるが有効な採餌場になっているという現状がある。

○ 浅枝座長

市野川は適切なかいぼりが必要となる。富栄養状態になっておりカビ臭が出ている。かいぼりするとカビ臭もなくなるため、適切な管理をするとよい。

○ 吉見町

情報収集とも関わるが、神社仏閣や公園などにある大きなマツや用水路・ため池など可能性があるところを我々自治体職員が確認して回ることも可能と思われる。

○ 長谷川委員

地元を知るという観点でもとても重要なことと思う。エコツアーに繋がる可能性もある。職員の方が自ら現場を回るとはとても良いことと考える。

○ 浅枝座長

ぜひお願いしたい。自治体職員の方も忙しくなり、現場を見る機会が減ってきている。これをいい機会として地域の隅々まで目を通しておくことは重要である。

(2) 協議会の英語表記について

【資料】協議会の英語表記について説明

○ 関東地方整備局 河川環境課

関東エコネットではまだ英語表記を定めていない。提示いただいた案のうち B 案の「Ecological Network Association in Arakawa」は見栄えがよく、また他の河川への展開も考えられそうである。

○ 浅枝座長

アメリカでもこうした団体はあり、表記は「Ecological Network Association of America」。最後の語句が場所になった場合は「in」ではなく「of」となる可能性もある。川の場合は「in」が適切かと感じる。

いずれにしても、「Ecological Network Association」とはアメリカで使用されているようなスケールであり、そうした意味では語呂などでのネーミングもよいと思う。

○ 事務局

英語表記については今後開催される協議会でも提示させて頂く予定であり、それまでの間にご意見などあれば事務局あてにお寄せいただければと思う。

(3) 今後の予定について

今後の協議会開催における出欠の確認等について説明

以 上